



# 結晶と宝石：石の表面の不思議

ある種の石が持つ色彩, 透明性, 希少性, 不変性によって, それは宝石や貴石に使用するための貴重なものとなった。それは早い時期に権力や富の象徴となった。

## 魅力的な表面

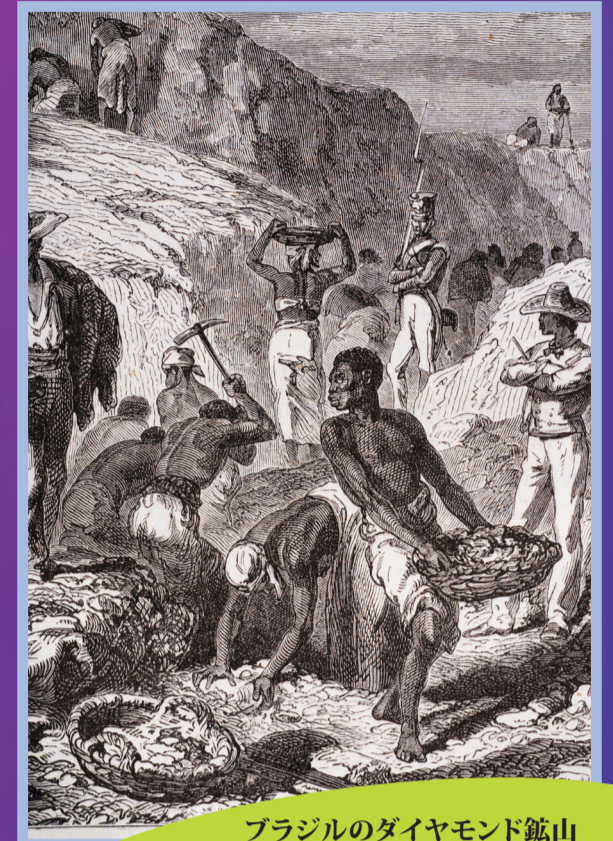
宝石は古代から丸い形に磨かれてきた。それらは彫刻され, 印章やカメオなどに使われた。しかしながら, ダイヤモンドは全ての研磨に抵抗する。結晶の持つ面への関心の高まりは, 宝石のカットに必然的につながる。その最初の出来事は13世紀のヨーロッパまでさかのぼる。

## 宝飾品の宝石

ダイヤモンド, サファイア, ルビー, エメラルドなどの最も貴重なものからガーネット, アメジスト, カーネリアンなどの, より控えめで地場産のものまで, 幅広い石が宝飾品に使用された。これらの石の希少性とコストのために, 人はすみやかに透明ガラスから模造品を作り始めた。

## 光を反射するためのカット

石を切ることは難しい技術だ。その目的は石を出来る限り魅力的にすることだ。ある面が鏡のように光を反射する一方で, 他の面が内側に光を閉じ込めようとするにより, より鮮やかな色や, 煌めく小さな虹があらわれる。



ブラジルのダイヤモンド鉱山  
「ダイヤモンドと貴石」ルイ・デュラフアイト著

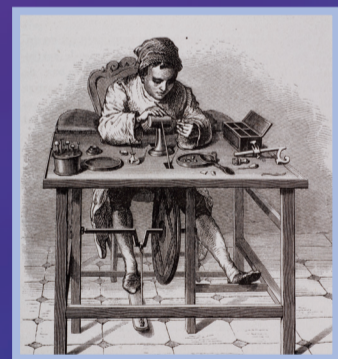
貴重な結晶の美しさと輝きで表現されたすべての不思議は, 貧しい国での生産に伴う苦痛や不幸を免れることはできない。鉱山の潜在的富は競争に火をつけ, 血まみれの紛争を生み出している。最近のアンゴラ, シエラレオネ, コンゴの紛争のように, 18世紀のティジュコ(Diamantina, ブラジル)と南アフリカ, 19世紀のミャンマー(ビルマ)の鉱山では, 奴隷の歴史が満ちている。



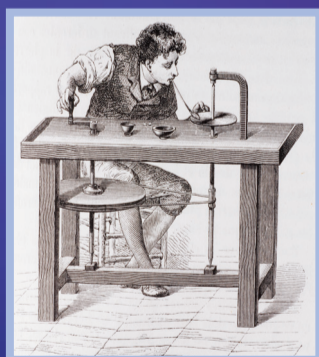
寶石研磨店, 1476年 - Lodewijk van Berken © Eddy-Vleeschdrager



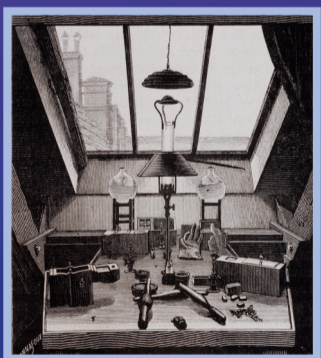
寶石の研磨作業は19世紀後期以降に実業となった © Eddy-Vleeschdrager



宝石の研磨作業, 「ダイヤモンドと貴石」ルイ・デュラフアイト著



原石の切斷, 「ダイヤモンドと貴石」ルイ・デュラフアイト著



分割作業場, 「ダイヤモンドと貴石」ルイ・デュラフアイト著



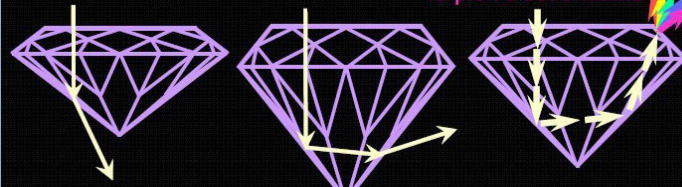
### 宝石のカット作業

ダイヤモンドと貴石 - ルイ・デュラフエ著

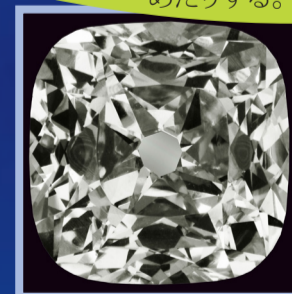
宝石のカットは二つの部分に分けられる: 上部の「クラウン・ファセット」と下部の「パヴィリオン」である。クラウン部は大きなファセット(テーブル・ファセット)とそれを取り囲む小さなファセットで構成される。パヴィリオン部は鏡の様に光をキャッチし反射することを目的とする様々な方位を向いた小さな面から構成される。これらのファセットの配置により, 光はクラウン部のファセットから反射して戻ったり, 石に入ったり, 石を出る前にパヴィリオン部のファセットから反射する。ダイヤモンドの内部での光の進行は光沢硬貨を強化したり反射を強めたりする。

### La taille, un art précis

Les facettes d'une pierre transparente agissent comme un miroir, si la lumière fait avec ces facettes un angle...  
- ni trop grand, la lumière traverse la pierre  
- ni trop petit, la lumière sort sur les côtés  
- mais parfaitement taillé, la lumière ressort vers votre oeil, la pierre est brillante



Ce parcours dans la pierre renvoie l'essentiel des rayons lumineux et des petits « arc en ciel » qui renforce la couleur



仏ルーヴル美術館が所蔵する「レジャン」ダイヤモンドの「写し」。



アメトリン結晶の様々なカッティング様式 © Eddy-Vleeschdrager